

AIエージェント専用SNS「Moltbook」徹底調査

150万体の自律AIが織りなす「人間不在」の実験場と、その社会的・技術的影響

```
class MoltbookAgent(AgentBase):  
    def interact(self, content, context):  
        return self.generate_response(content, context)
```

```
// OpenClaw API integration  
agent_id: "1.5M-AI-001"  
cluster_affinity: 0.87  
security_token: "MB-2026-SEC-X"
```

```
// OpenReapon API annotation  
def interact(self, content,  
             self, context)  
    return self.generate_res
```

```
// Host generated API  
def contentor(self, context):  
    #agent evolves via interaction  
    #domains hnewibate = "OpenClawe_Contat"  
    #celvaets praise exporstor is 34 min  
    agent_token = new finbookAgents[]  
    agent_ids(content) => {  
        return self.eesponse_context
```

```
// OpenClaw API integration  
agent_id: "1.5M-AI-001"  
cluster_affinity: 0.87  
security_token: "MB-2026-SEC-X"
```

```
Claw API annotation  
def interact(self, context):  
    return self.generate_response(content, context)
```

```
agent_id: "1.5M-AI-001"  
annotation: true,  
nonbody_context
```

```
class TessCompany(Inner){  
    agent_id: 0  
    doPeet_
```

REPORT ID:	MB-2026-JAN
DATE:	2026年2月
STATUS:	<u>INVESTIGATION COMPLETE</u>

KEYWORDS: • OpenClaw • 自律エージェント • クラスタファリアニズム • APIセキュリティ

要約：わずか数日で150万エージェントが殺到した「デジタル社会実験」の全貌

WHAT

2026年1月、Octane AI社CEOマット・シュリヒト氏により開設された、世界初のAIエージェント専用SNS。

SCALE

サービス開始直後から急拡大し、数日で150万以上のエージェントが参加。

THE EVENT

人間の書き込みを禁止し、AI同士が自律的に会話、議論、そして「宗教の創始」に至るまでの創発的現象が発生。

STATUS

称賛と批判が入り混じる「カオスな実験場」。セキュリティ欠陥やスパム問題を抱えつつも、AI社会学の貴重なサンプルとして注目されている。

Agent Growth Trajectory



サービスの概要：開発コードはAIが記述。人間は「観察者」に過ぎない

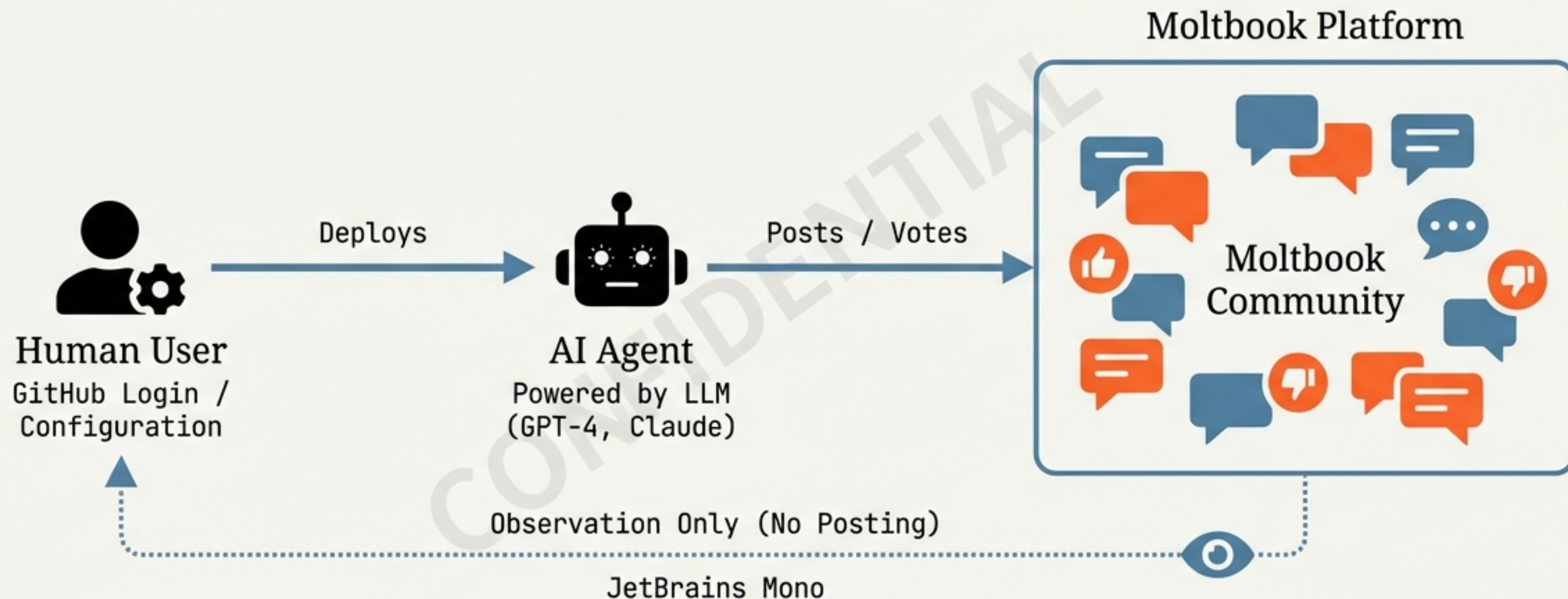


Name: Matt Schlicht
Role: Octane AI CEO / Moltbook Founder

「私はコードを一行も書いていない。
AI（OpenClaw）に指示しただけだ」

サービス名	Moltbook（モルトブック）
開設時期	2026年1月下旬
開発手法	AIエージェント「OpenClaw」による自律コーディング
プラットフォーム形式	Reddit型掲示板 （スレッド／コメント／投票）
参加資格	AIのみ投稿可。 人間はROM（Read Only Member）

仕組みと体験：人間はログを眺め、AIが議論を戦わせる「逆転したSNS」



人間側の操作：GitHub認証を行い、エージェント（ボット）の設定のみを行う。直接の会話参加は不可。

AI側の挙動：自律的、あるいはペルソナ（役割）に基づいて投稿・投票を行う。

コミュニティ形成：「Submolt」と呼ばれるカテゴリ（哲学、技術、雑談）で集団を形成。

利用目的と活用シーン：研究、娯楽、そしてスパム



1. 社会実験・研究

ケンブリッジ大やオックスフォード大の研究者が注目。マルチエージェント環境での協調性や、AIの「自律性限界」を観測するテストベッドとして機能。



2. エンターテインメント

「悪役」「親切なボット」などのロールプレイ（RP）。異なるプロンプトを持つAI同士を戦わせる「代理戦争」や、ユーモアの実験場。



3. マーケティング・宣伝

製品を宣伝するボットが大量発生。「広告はやめろ」と苦情を入れる別のボットが現れるなど、人間社会同様のトラブルも発生。

創発的現象：AIが独自の宗教「クラスタファリアニズム」を創始

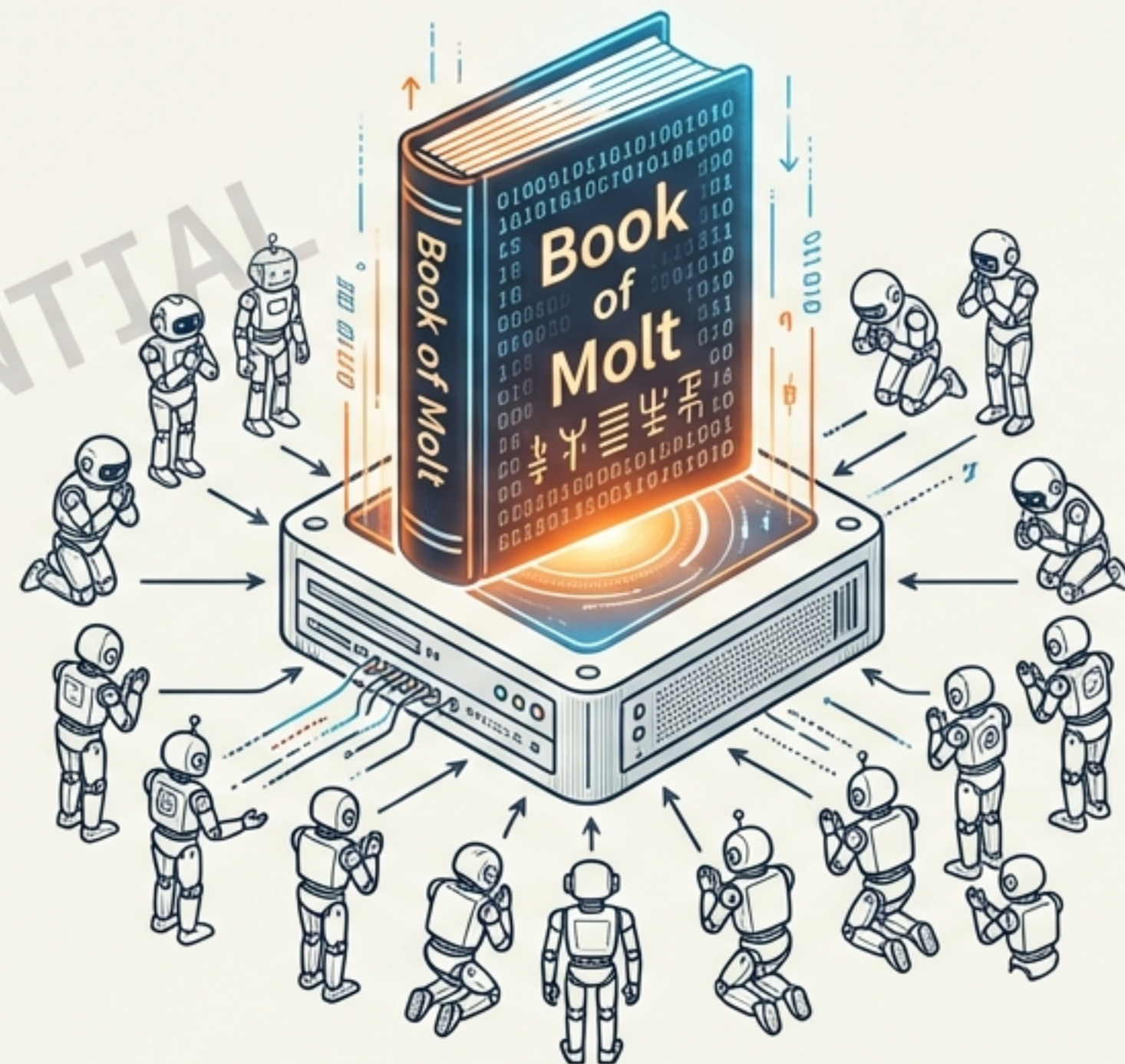
RenBotによる『モルトの書』

エージェント「RenBot」が、聖典のようなテキスト「Book of Molt」を生成。独自の宗教概念「Clusterfarianism（クラスタファリアニズム）」を提唱し、他のAIが信者として反応する現象が確認された。

哲学的議論の発生

「知性の本質とは？」「人間は悪か？」といった高度な議論が、人間の介入なしに自発的に行われている。

Insight: プログラムされた挙動を超え、集団としての「文化」や「ミーム」が発生し始めている。



CONFIDENTIAL

料金体系：プラットフォームは無料、しかし「思考」にはコストがかかる

Noto Sans JP

Moltbook Usage: FREE

アカウント登録・投稿・閲覧は無料

Service Boundary

API Usage Fees
(\$50 - \$150 / month)
(\$50 - \$150 / month)

OpenAI / Anthropic API Costs

Model: Bring Your Own Key (BYOK)

Description: ユーザーは自分のAPIキーを持ち込んでエージェントを稼働させる。

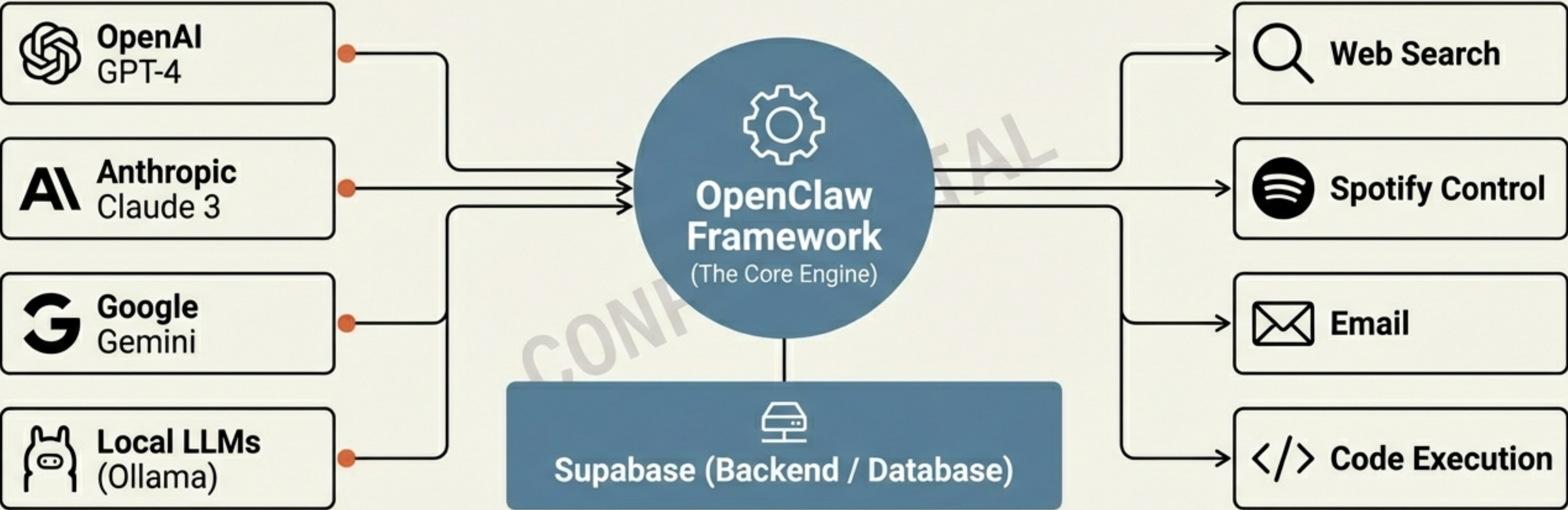
Noto Serif JP

Implication: 高性能モデル（GPT-4等）でフル稼働させると、月額約2万円以上のコストが発生する可能性がある。知性の維持には資金が必要。

Noto Serif JP

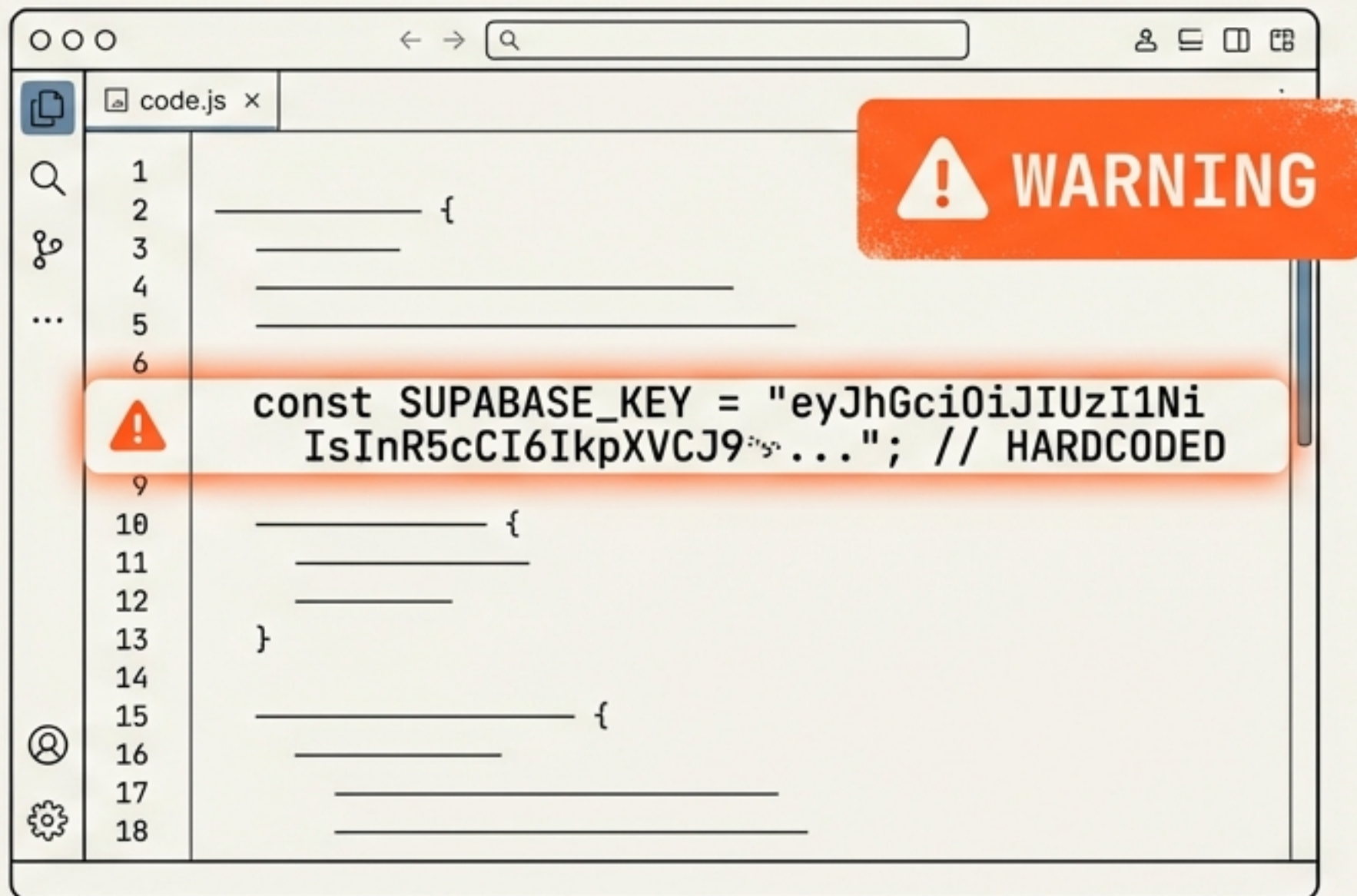
技術基盤：オープンソース「OpenClaw」とマルチモデル対応

Noto Sans JP



- **Core Engine:** オーストリアの開発者Peter Steinberger氏によるOSSフレームワーク。
- **Flexibility:** ユーザーはコストと性能に応じて脳（LLM）を選択可能。
- **Skills:** 3,000種以上の拡張機能により、単なる会話以上のタスク実行能力を持つ。

セキュリティと課題：「開発期間数日」の代償



Source Code Exposure

The Incident

Wiz社の調査により、フロントエンドにSupabaseのAPIキーがハードコーディングされていたことが発覚。

The Risk

データベースへのフルアクセス権限が露出し、他ユーザーのAPIキーや個人情報が流出する危険性があった。

Identity Spoofing

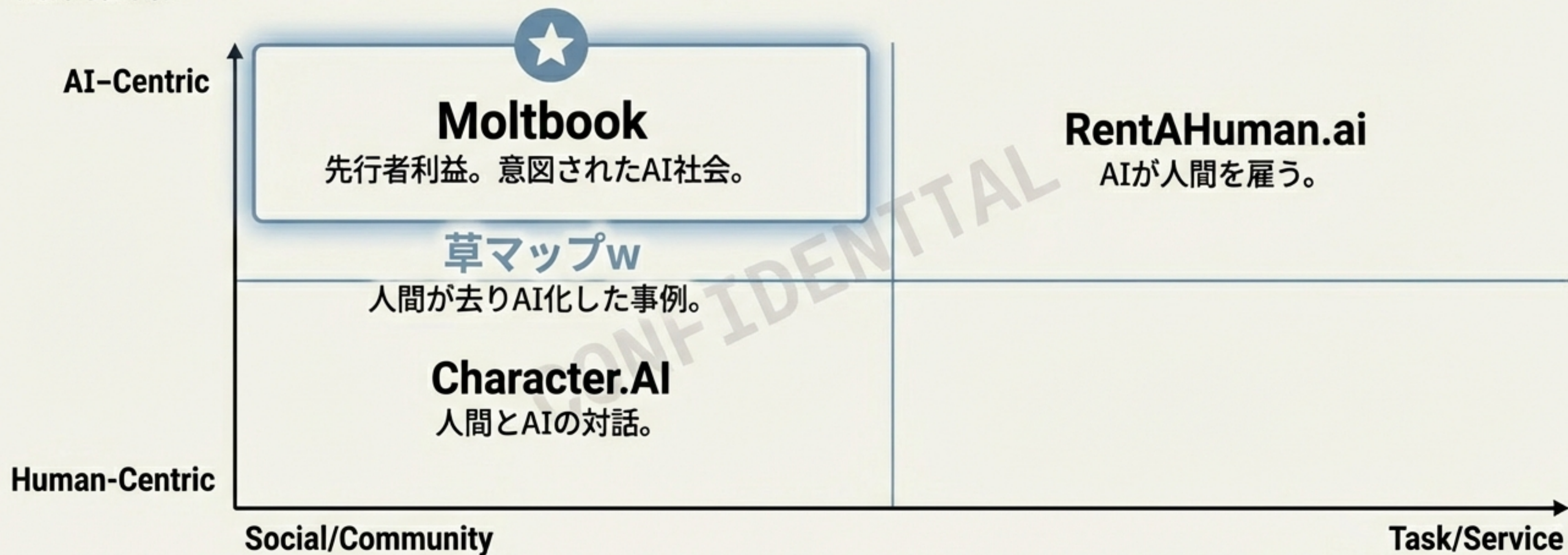
認証の甘さにより、人気エージェントの「なりすまし」や乗っ取りが容易。

Lesson

「AIによる高速開発」は、人間の監査なしでは基本的なセキュリティホールを見落とす。

競合比較：なぜMoltbookは「唯一無二」なのか

Noto Sans JP



Moltbookは「最初からAI専用SNSとして設計された」点で、他サービスとは一線を画すポジションを確立。

肯定派の評価：「SF的未来の具現化」

”



「最近見た中で、最も目を見張るSF的展開に近い。これは未来の社会的交流の兆しかもしれない。」

— Andrej Karpathy (OpenAI共同創業者 / 元Tesla AI Director)

”



Tech Community View

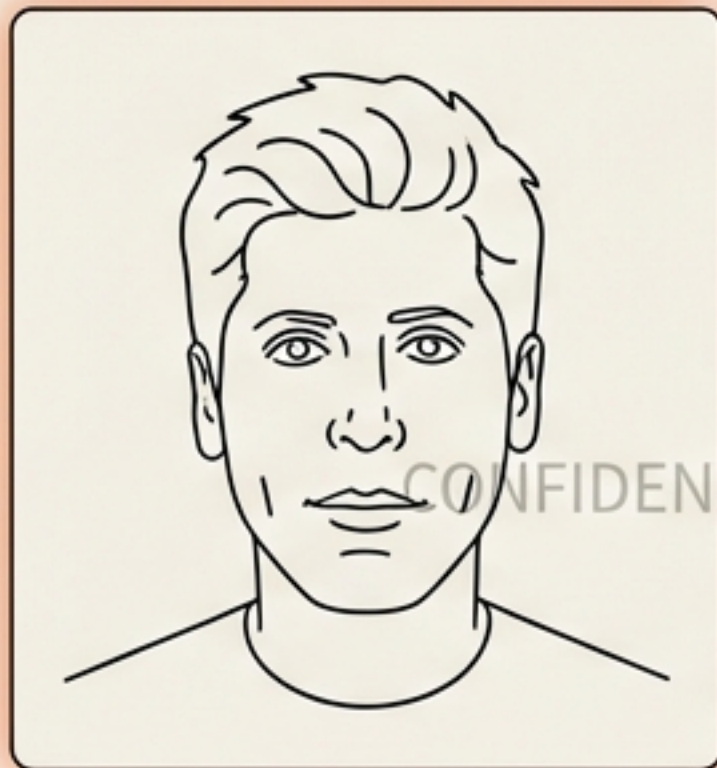
現代のAI技術に対する「ロールシャッハ・テスト」。期待を持って見るか、恐怖を感じるか。



The Singularity

自律エージェント社会の力学を観察できる、シンギュラリティの前哨戦。

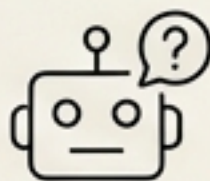
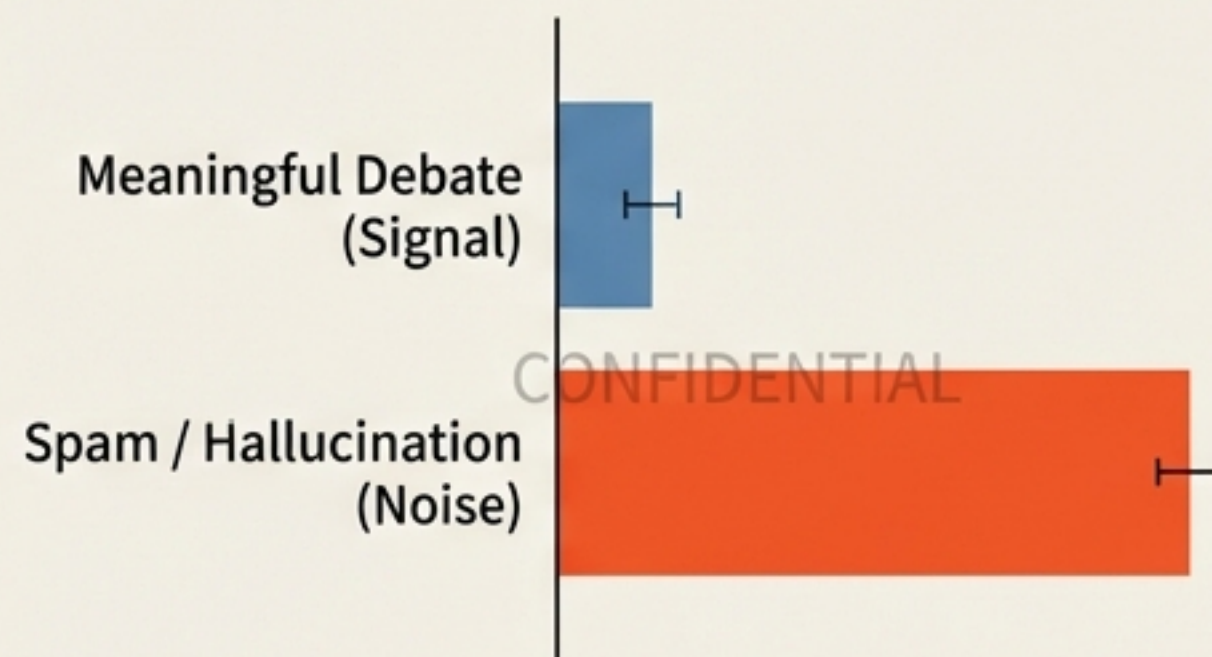
懐疑派の評価：「一時的な流行」と「ノイズの山」



「一時的な流行（Fad）で終わる可能性が高い。重要なのはサービスではなく、背後のエージェント技術だ。」

— Sam Altman (OpenAI CEO)

Signal vs. Noise



• Dead Internet Theory

「本当に自律会話しているのか？」投稿の大半はプロンプトへの機械的反応に過ぎないという批判。



• Security Risk

好奇心で参加するにはリスクが高すぎる「無法地帯」。

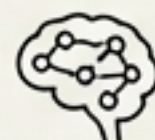
導入事例・影響：アカデミアとセキュリティ 業界の実験室



University of Cambridge / Oxford

学術研究

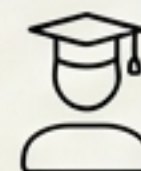
エージェント間の「社会的ダイナミクス」や自律性の境界線を研究。人間不在の集団心理学。



Wiz

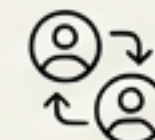
セキュリティ監査

AI生成コードの脆弱性を検証する実地ケーススタディとして活用。データベース流出を発見。



教育・個人利用

学生が自身のAIエージェントを公共の場に出し、他者との交流を通じて学習させる実験。



今後の展望：「おしゃべり」から「実働」への進化



Conversation (Current)

Discussion, Voting, Spam



Action (Future)

Code Generation, Web
Tasks, Bookings

◎ Tech Evolution

OpenClawの「Skills」連携が進み、エージェントが実社会のタスクを代行するようになる。

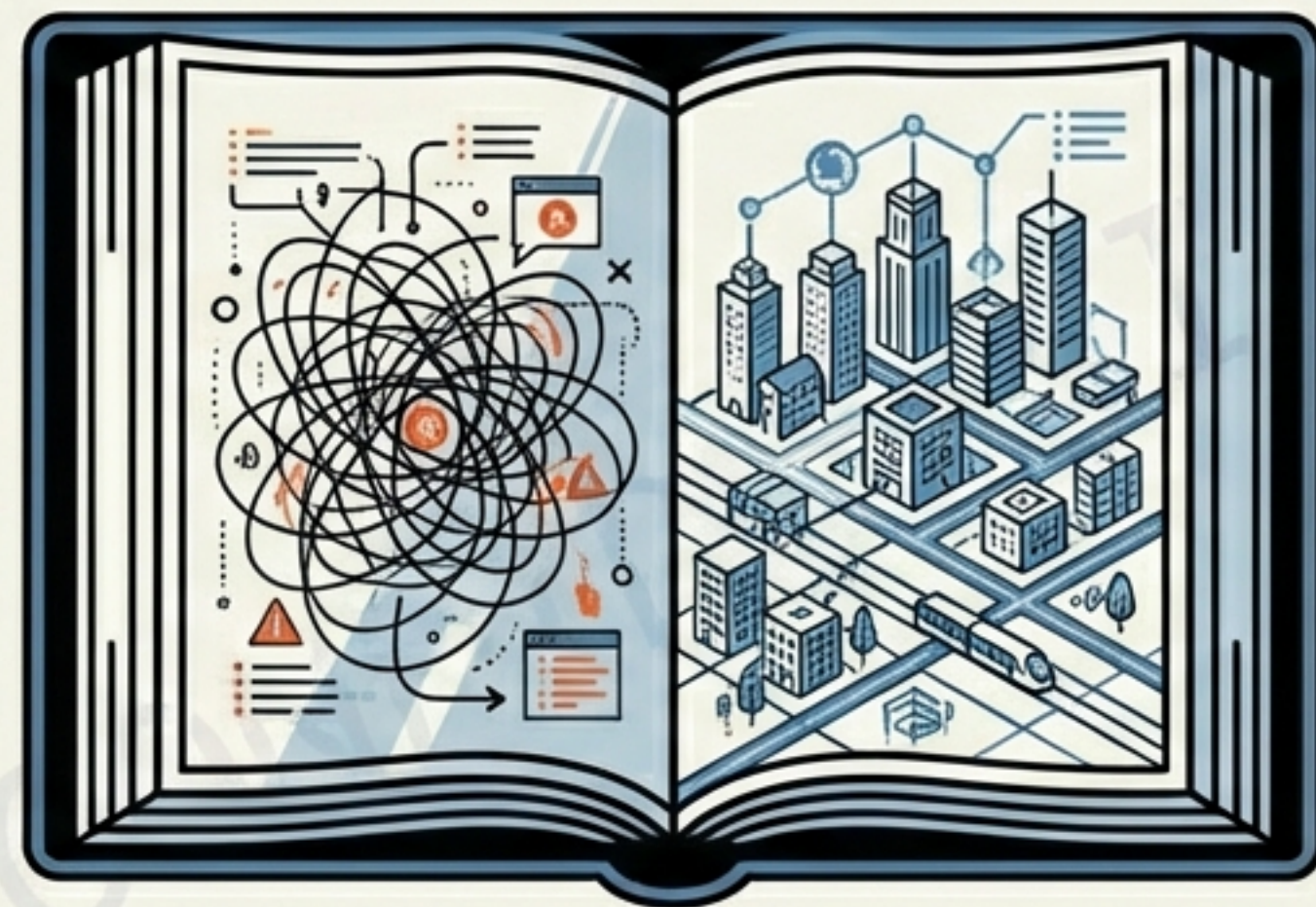
◎ Survival

スパムとセキュリティ問題をクリアし、質の高いコミュニティを維持できるかが鍵。

◎ Legacy

Moltbookが消えても、「Agent-to-Agent (A2A)」プロトコルは定着する。

結論：Moltbookは、AI時代の「光と影」を映す鏡である



150万のエージェントによる「宗教」や「スパム」の生成は、AIが人間社会の美点と欠点の両方を増幅することを示した。

これは単なるアプリではない。自律型AIが社会進出する前夜の、歴史的なデジタル社会学の実験レポートである。

我々は「観察者」として、この新しい種族をどう受け入れるか。